

シナノスイート

登録番号：第5139号
登録年月日：平成8年8月22日
登録者：長野県（長野市南長野字幅下
692-2）

育成者：羽生田忠敬 白田 彰 小松宏光
宮澤孝幸 山下裕之 飯島貞次
馬場孝幸 小池洋男 小林祐造
来歴：「ふじ」と「つがる」の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹姿は直立と開張の中間で、樹勢は中、若木のわい性台木の生育は「つがる」に似る。枝梢の太さは細く、節間長は中位、皮目の大きさ、密度は中位で、枝梢の毛茸も中位である。短果枝の形成、花芽の着生はいずれも良好で、腋花芽の着生は少ない。

蕾の色、満開時の花の色はともに淡桃色で、花弁は長円で単弁（5枚）である。雄ずいのは中程度で、葯の色は黄色で、花粉の量は多い。

葉身の形は、L/B比1.8程度で長く、葉の大きさ（葉身の長さ）は短く、葉緑の鋸歯は鋭鋸歯状である。葉柄は短く、太い。

開花期は4月下旬から5月上旬で、満開期は5月上旬である。主要品種の「ふじ」や「つがる」と同時期で、「千秋」よりはやや早い。花粉は稔性であるが、自家和合性は認められない。他品種との交雑和合性は「ふじ」、「つがる」および「王林」との間に相互に高いが、「千秋」とは不和合性である。

育成地（長野県須坂市）における熟期は年次間差があるが概ね10月上旬で、「つがる」より1か月程度、「千秋」より2週間程度遅く、「ふじ」より1か月程度早い。満開期から成熟期までの日数は145～155日である。長野県内では、標高が低く温暖な産地では10月上旬、標高が高く比較的寒冷な産地では10月中旬が収穫期である。

■果実特性

果実の大きさは350g前後で大きい。果形は長円で、王冠は認められない。果皮を被う色は赤、色の量は中位で、縞は明瞭である。果面のさびはこうあにみられるが、その量は無からわずかである。果梗の長さおよび太さは中位で、肉梗の発生はみられない。

果肉の色は黄白色で、果肉の褐色化の度合いは弱い。果肉の硬さ、きめはともに中程度で、果汁が多く、蜜は入らない。甘味は中位で、屈折計示度で14～15%、酸味は弱く、滴定酸度（リンゴ酸換算）は0.3%前後である。食味は甘味が勝り、多汁で良好である。果肉の粉質化の程度は難で、貯蔵性は室温で2週間程度、冷蔵で2か月程度である。貯蔵性はこの時期の品種としては長い。

生理的落果は早期、後期ともに少なく、コルクスポット、ビターピットの発生も少ない。心かびの発生は時にみられるが、果肉の腐敗、褐変を生じることがごくまれである。

■病虫害抵抗性

病虫害に対する抵抗性は普通と思われる。試験研究の範囲では通常の防除では病害虫の大きな被害はみられていない。斑点落葉病の罹病性は接種検定の結果、「ふじ」と「つがる」の中間程度である。黒星病や赤星病には、遺伝的背景から罹病性と考えられる。

■地域適応性

「シナノスイート」は長野県内での試作において、いずれの産地でも、外観、食味ともに優良であった。このことから、地域適応性の幅が広く、長野県内のリンゴ栽培地帯全域に普及できるものと考えられる。一方で、寒冷な地域の果実ほど、着色が濃く、外観が優れる傾向がみられ、寒冷な地域に適応した品種とも考えられる。したがって、長野県だけでなく、東北各県まで広く適応できる品種と考えられる。

（小松宏光）